



火災保險分類統計論(2)

瀧谷, 善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 24(2):197-214

(Issue Date)

1918-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052841>



火災保險分類統計論 (其二)

神戸高等商業學校教授

商學士 瀧 谷 善 一

四

抑火災保險ノ合理的料率ハ其基礎ヲ統計ノ上ニ置カザルベカラザルコトハ細説ヲ要セザルベシ。蓋シ個々ノ建物ニツキテハ偶發的ニシテ、何時、何レノ建物ニ如何程ノ損害ヲ齎スベキカ全ク豫知スベカラザル火災モ、之レヲ非常ニ多數ノ建物ニツキ觀察スルニ於テハ、自ラ其間ニ一定ノ秩序ノ存在スルアリテ毎年著シキ相違ヲ表ササル平均損害額ヲ示スベシ。而シテ此平均損害額ヲ基礎トシテ保險料ヲ算定スルハ即チ過去ノ經驗ニ保險料ノ根柢ヲ置ク所以ニシテ、統計方法宜シキヲ得ルニ於テハ、之レ以外ニ合理的料率算定方法ノ存在セザルコトハ復言フヲ俟タザルベシ。

分類純保險料統計ハ此ノ如キ統計ヲ多クノ保險ノ目的ノ種類毎ニ編成セントスルモノナリ。蓋シ現今ノ如キ、商工業ノ發達、建築ノ進歩、消防設備ノ改良ニ因リ、被保險物ノ危險ニ著シキ相違ヲ來シタル時代ニ在リテハ、保險ノ目的トナルベキ物

件ヲ危險ノ程度ニ依リ數多ノ種類ニ別チ、其各種毎ニ別々ニ純保險料ヲ見出シ、コレヲ以テ其各種類毎ノ保險料算定ノ基礎ト爲サントスルハ被保險者ニ對シ公平ナル處置ナルノミナラズ、保險者ニトリテ便宜ナル手段ナリ。蓋シ保險者ハ之レニヨリテ各部類毎ニ其營業狀態ヲ監督制御スルニ便ナルコト、恰モ「デバートメントストア」ニ於テ各部類毎ニ仕入品ノ原價ヲ算定シ、其營業ノ成績ヲ監視スルガ如キモノナレバナリ。サレバ保險料算定ノ基礎ヲ分類純保險料統計ノ上ニ置クコトハ主義トシテ適當ナルコトナリ。

サレド此ノ如キ統計ガ營業上有効ナル保險料算定ノ基礎トナルヲ得ンガ爲メニハ、左ノ三ノ條件ヲ充サルベカラズ、(一)各部類ハ同一又ハ類似ノ保險ノ目的ヨリ成ルコト、(二)各部類ニ屬スル保險ノ目的ガ多數ニ存在スルコト、(三)相當ニ長キ期間ニ互リテ統計的觀察ヲ遂グルコト是レナリ。

一、既ニ分類統計ノ主ナル目的ガ危險ノ程度ノ異ル各部類毎ニ、危險ニ相當スル純保險料ヲ見出スニ在ル以上ハ、其各部類ニ屬スル個々ノ保險ノ目的ノ危險ハ同一ナルモノナラザルベカラズ、若シ然ラズシテ、一分類ニ屬スル保險ノ目的ノ危險ノ程度ガ互ニ著シク異ルニ於テハ、此種ノ統計ヨリ得タル結果ハ正確ニ其部類ニ

屬スル總テノ保險ノ目的ノ保險料ヲ示スコトヲ得ズ。或種ノ被保險物ニ對シテハ餘リニ高キニ失シ、他ノ種ノ被保險物ニ對シテハ餘リニ低キニ失シ、結局分類統計ヲトリタル目的ニ協フコト能ハザルベシ。加之、危險ノ程度ノ著シク相異ル保險ノ目的ヲ一分類ニ概括スルトキハ、其統計ノ結果、得ベキ平均保險料ハ屢變動ヲ免レザルベク、非常ニ多數ノ物件ニツキテ統計スルカ、若クハ非常ニ長キ期間ニツキテ統計スルニ非ザレバ、變動少クシテ保險ノ經營ノ基礎ト爲スニ足ルベキ統計上ノ結果ヲ得ルコト困難ナリ。然ルニ分類統計ニ於テハ後ニモ述ブルガ如ク、非常ニ多數ノ目的ヲ其一分類ニ集ムルコト困難ニシテ、又非常ニ長期ノ經驗ヲ其統計ニ加フルコトモ適當ナラザルヲ以テ、分類統計ノ結果ヲ比較的不動確實ノモノタラシメンガ爲ニハ、其分類ニ屬スル保險ノ目的ノ危險ガ同一ナルコトヲ要スルナリ。

此ノ如ク分類統計ニ於ケル各分類所屬ノ保險ノ目的ノ危險ガ同一ナルコトハ分類統計編成ノ目的ヨリイフモ、分類統計ノ技術ヨリイフモ、甚ダ大切ナルコトナリ。然レドモ、元來火災ノ危險ナルモノハ種々複雑ナル要素ヨリ成ルモノニシテ、之レヲ正確ニイフトキハ、何レノ二ノ保險ノ目的モ同一ノ危險ナルモノナシト謂ヒテ可ナル位ナレバ、分類統計ニ於テモ、全ク同一ノ危險ヲ有スル保險ノ目的ヲ集ム

ルコトハ不可能ナリ、サレバ實際ニ於テハ危險ノ近似セル保險ノ目的ヲ一分類ニ集メテ統計ヲトルヲ以テ満足セザルベカラズ。是レ分類統計ノ一缺點ニシテ、又分類統計反對論ノ有力ナル根據ヲ爲ス點ナルコトハ後ニ述ブル所ノ如シ。

二、統計ノ結果ガ有益ナランガ爲メニハ、多數ノ保險ノ目的ニツキテ觀察セザルベカラザルハ細說ヲ要セズ。蓋シ多數ノ保險ノ目的ニツキテ觀察シテコソ、初メテ平均ノ法則(Law of Average)ガ行ハレテ火災ノ損害ノ確率ヲ知リ得べく、少數ノ保險ノ目的ニツキテノ統計ハ正確ナル確率ヲ示サズ從ツテ將來變動多クシテ、保險料算定ノ基礎トシテ用フベカラザレバナリ。尤モ正確ナル確率ヲ見出サンガ爲メニハ幾何ノ保險ノ目的ニツキテ統計ヲトルベキカハ概言スルコト困難ナリ。例ヘバ普通住宅ノ如ク、其價額集中セズ、且ツ危險ノ程度ノ餘リ異ナラザル種類ノ物件ニツキテハ、工場倉庫ノ如ク非常ニ多額ノ富ガ一所ニ集中シ、且ツ危險ノ程度ノ著シク異ル種類ノ物件程多數ノ保險ノ目的ニツキ統計ヲトル必要ナカルベシ。サレド一般ニイフトキハ、統計ニ編入スル保險ノ目的ガ多ケレバ多キ程、其結果タル確率ハ正確トナリ、將來ノ保險料算定上有効ナル基礎トナルベキナリ。

三、然ルニ火災保險ニ在リテハ生命保險等ト異リ、大火ナルモノアリテ、不慮ニ多

額ノ保險金ノ支拂ヲ爲サルベカラザルコトアリ。此大火ハ其年、其時ノ氣候殊ニ風位、風勢等ト關係ヲ有シ、毎年、起ルト限ラザレド、又何時、起ルヤヲ保スベカラズ。サレバ保險料ヲ計算スルニ當リテハ、豫メカ、ル大火ノ起リ得ベキコトヲ豫想シ置クコトヲ至當トス。コレニハ保險料算定ノ基礎トシテ、單ニ二年、三年ノ統計ニ止ラズ、數年ノ統計ヲトルコト必要ナリ。例令、大火ト稱スベキ程ノコトナクトモ、火災損害率ハ年々同一ニ非ザルヲ以テ、一年、二年、三年ノ統計ヲ以テ將來ノ保險料ノ基礎トスルコトハ正確ナル方法ニ非ザルナリ。

サレバトテ、二十年、二十五年ノ長期間ノ統計ヲトリテ將來ノ保險料ノ基礎トスルコトモ正確ナル方法ニ非ズ。蓋シ過去二十年、二十五年ノ間ニハ建築、水道、消防設備等ニ著シキ進歩ヲ示シタリ。今ヤ瓦斯電氣ハ到ル所ニ利用セラレツ、アリ。都會ハ膨脹シ人家ハ稠密トナレリ。商工業ハ發達シテ、大ナル富ハ一箇所ニ集積スルニ至レリ。工場ノ規模大トナリ、其使用スル職工ハ非常ノ數ニ上レリ。新シキ器械、新シキ工程、新シキ工業藥品ハ各種ノ工業ニ於テ著シク使用セラル、ニ至レリ。凡ソ此等ノ變化ハ火災ノ損害率ニ大ナル影響ヲ與ヘズンバアラズ。從ツテ今日ト火災ノ危險著シク異ル二十年、二十五年以前ノ經驗數字ヲ統計中ニ算入スルコトハ將來

ニ對シ使用セントスル統計ノ効力ヲ弱ムルモノト謂フベシ。サレバ余ハ分類統計ニ編入スベキ統計ハ可ナリ長期ニ互ルコトノ必要ナルヲ認ムルト同時ニ、其過長ナラザルコトノ必要ヲモ感ズルモノナリ。

然ラバ統計的觀察ヲ爲スベキ適當ナル統計期間ハ如何之レ亦統計的觀察ヲ爲スベキ保險ノ目的ノ性質竝ニ多寡ニ依リテ、個別的ニ決定スベキ問題ニ屬ス。詳言スレバ、普通ノ住宅ノ如ク、其數多ク、危險相類似シ、且ツ危險ノ程度モ低キモノニツキテハ比較的短期間ノ統計ニテモ實効アル確率ヲ算定シ得ベク、反之、製紙工場ノ如ク其數少ク、且ツ危險大ニシテ一度ニ多額ノ損害ヲ齎スベキ恐アルモノニツキテハ比較的長キ期間ノ統計ヲトラザレバ實効アル確率ヲ算定スルコトヲ得ザルベシ。從ツテ適當ナル統計期間如何ハ之レヲ概言スルコトヲ得ズト雖モ、大體ニ於テ過去十年間(被保險物ノ種類ニヨリ十五年間)ノ統計ヲトラバ、先ヅ大過ナカルベシ。蓋シ十年間ニハ大體火災ノ少キ年モ火災ノ多キ年モ含マレ居リ、然カモカ、ル期間ナラバ危險ノ程度ハ比較的變化スルコト少ナケレバナリ。外國ニ於ケル實際竝ニ専門家ノ意見亦大體コレニ一致シ居レリ。(註)若夫レ十箇年ノ統計ヲ以テスルモ正當ナル確率ヲ得ラレザルガ如キ種類ノモノアラバ、此ハ獨立ノ部類トセズ

シテ危險類似ノ他ノ部類ニ合併シテ一分類トナスノ適當ナル場合多カルベシ。

註一、多クノ國ノ料率制定ノ爲メニ統計ナトル場合ニハ大抵過去十箇年ノ數字ヲ基礎トス。Richards, Horst (前掲)ノ說ク所亦然リ、尤モイリノイ州保險監督官ゴツツ氏ノ如キハ住宅、小賣店、藥種店等ノ如ク非常ニ多クノ保險ノ目的ヲ含メル種類ノモノハ一箇年ノ統計ニテモ正確ナル確率ヲ發見シ得ベシトナセリ。果シテ然ルヤ否ヤハ此後同州ノ編纂スル統計ニ照シテ判斷セハ。(R. M. Poots: Addresses and Papers on Insurance, p. 273.)

五

上述ノ如ク、分類純保險料統計ニ於テハ同一又ハ類似ノ危險ヲ有スル保險ノ目的ヲ一類トシテ統計ヲトルベキナリ。換言スレバ分類統計ニ於ケル分類ノ標準ハ保險ノ目的ノ危險ノ程度ノ同一又ハ類似ナルコトニ在リ。而シテ危險ノ同一又ハ類似ナルコトハ保險ノ目的ノ危險ヲ決定スル諸種ノ要素ヲ分解シテ考察スベキモノナリトス。コレヲ研究スルコトハ本論ノ目的ニ非ズト雖モ、本論ニ關係アルガ故ニ簡單ニ之レヲ述ベンシニ、火災ノ危險ハ之レヲ實體的危險(Physical hazards)ト道德的危險(Moral hazards)トニ大別スルコトヲ得ベシ。實體的危險トハ外界ニ表現スル物質ニ附隨スル危險ヲイフ例ヘバ建物ノ建築、消防設備等ノ如キ是レナリ。反之道德的危險トハ主トシテ被保險者ノ道德ノ缺陷ニ附隨スル危險ヲイフ例ヘバ被保險者ノ故意ニ放火セントスル意思ノ如キ是レナリ。道德的危險ハ之レヲ一定ノ標準

ニヨリ分類シ豫測スルコトヲ得ザルヲ以テ、分類統計ヲトルコトヲ得ズ。サレバ分類統計ニ在リテハ實體的危險ノミヲ標準トシテ分類シ統計スルノ外途ナシ。

抑實體的危險ハ(一)保險ノ目的ノ火災ノ原因ヲ爲スベキ性質(二)火災ニ因リテ燃

燒スベキ性質即火災ノ擴大又ハ防止ノ性質及(三)燃燒セザルモ火災ノ際ノ注水煙

熱ニ因リ損害ヲ受クベキ性質ニ依リテ大小ヲ決スベキモノニシテ、此等ノ性質ハ

又(イ)保險ノ目的ノ所在地ノ自然的及ビ社會的事情(ロ)保險ノ目的ノ種類即チ建物

ナリヤ、動產ナリヤ、(動產中ニテモ家具財ナリヤ)(商品ナリヤ、器械ナリヤ等)(ハ)保險ノ目的タル建物、又ハ保險ノ目的タル

動產ヲ容ル、建物ノ材料及ビ構造、(ニ)建物使用ノ目的特ニ其内ニテ營マル、職

業ノ種類、又ハ其内ニ收藏セラル、商品ノ性質(ホ)保險ノ目的ノ周圍ノ狀況、及(ヘ)保

險ノ目的ノ私設消防設備例ヘバ自働消防設備ヲ有スルヤ、否ヤ等諸種ノ事情ニヨ

リテ定マルモノナリ。サレバ同一又ハ類似ノ危險ヲ一類ニ集メンガ爲メニハ、是等

總テノ事情ヲ分解シテ、比較考量スベキ筈ナリ。然シナガラ此等ノ事情ヲ細ク觀察

シテ危險ノ同一ナルモノ、ミヲ一類ニ集ムルコトハ不可能ニ屬スルヲ以テ、從來

行ハレタル分類統計ハ主トシテ保險ノ目的ヲ其使用ノ方法ニヨリテ數種乃至數

百種ニ別ツコト、セリ。コレニヨリテ住宅、倉庫、店舖、工場(同シ工場中ニテモ、紡績工場、製粉工場等)等ノ平均

純保險料ヲ算出スルコトヲ得ルモノナルガ、他方ニ於テ地方の事情及ビ建物ノ構造ニヨリ料率ニ斟酌ヲ加ヘンガ爲メニ、次ノ二ノ方法ノ何レカヲ行ヘリ。

一、對等分類法 之ハ前述ノ保險ノ目的使用別（即チ職業別統計ト全然獨立シテ對等ニ總テハ保險ノ目的ニツキ地域別又ハ建築別ニヨリテ分類統計ヲトルナリ。之ニヨリテ例ヘバ甲地域内ニ於ケル總テハ保險ノ目的ノ平均純保險料ガ乙地域内ニ於ケル總テハ保險ノ目的ノ平均純保險料ノ半分ナルコトヲ見出ス時ハ此割合ガ各職業ニツキテモ存在スルモノト見做シ住宅モ倉庫モ工場モ店舗モ總テ甲地域内ニ在ル保險ノ目的ノ料率ヲ乙地域内ニ在ル同種ノ保險ノ目的ノ料率ノ半分トナスナリ。又總テハ保險ノ目的ノ建築別分類統計ニヨリテ例ヘバ煉瓦造建物ノ平均純保險料ガ木造建物ノ平均純保險料ノ三分ノ一ナルコトヲ知り得タリトセバ此割合ガ何レノ職業ニ於テモ又何レノ地方ニ於テモ同様ニ存在スルモノト看做シテ總テノ職業及ビ總テノ地方ノ煉瓦造建物ト木造建物トノ料率ヲ一ト三トノ割合ニ定ムルモノナリ。例ヘバ今全國ヲ通ジ總テノ建築構造ノ倉庫ノ純保險料率ガ千分ノ三ナルコトヲ知り同時ニ他方ニ於テ總テノ保險ノ目的ニツキ分類統計ヲトリタル結果甲地ノ平均料率ガ乙地ノ平均料率ノ二倍木造建物平均料率

ガ煉瓦造建物ノ平均料率ノ三倍ナルコトヲ知リタルトキハ、倉庫ニツキテモ此割合ガ適用セラル、モノト見テ、總テノ倉庫ノ純保險料率ニ斟量ヲ加フルナリ。即チ先ヅ甲地ノ倉庫平均率ヲ千分ノ四、乙地ノ倉庫平均率ヲ千分ノ二トシテ甲地ト乙地トノ間ニ均衡ヲ得セシメ、コレニテ平均率ハ千分ノ三トナル。次ニ同ジ甲地又ハ乙地ノ倉庫ニ在リテモ木造ハ煉瓦造ノ三倍ナルヲ以テ、甲地ノ木造倉庫ヲ千分ノ六、甲地ノ煉瓦造倉庫ヲ千分ノ二トシ、コレニテ平均率ハ千分ノ四トナル。乙地ノ木造倉庫ヲ千分ノ三、乙地ノ煉瓦造倉庫ヲ千分ノ一トナスナリ。コレニテ平均率ハ千分ノ二トナル。此方法ニヨリ算出セル前記ノ保險料ハ甲地、乙地ノ木造煉瓦造ノ倉庫ノ保險金額ガ總テ同一ナルトキニ限り總テノ倉庫ヲ通ジテ平均千分ノ三ノ料率トナル。換言スレバ甲地、及ビ乙地ノ木造及ビ煉瓦造ノ倉庫ヲ同一金額丈ケ各上記ノ料率ニテ保險スルトキハ其收入保險料ハ總テノ倉庫ノ平均料率千分ノ三ニ合致スルモノナリ。然レドモ實際ニ於テハ甲地ノ木造倉庫、煉瓦造倉庫、乙地ノ木造倉庫、煉瓦造倉庫ノ保險金額ガ同一ナラザルヲ以テ上述ノ如キ保險料ノ割當テ方法ニテハ總テノ倉庫ノ平均保險料ハ或ハ千分ノ三以上トナリ、或ハ千分ノ三以下トナルベシ。サレバトテ、倉庫ノ平均保險料ガ千分ノ三トナルヤウニ甲地方ト乙地

方トノ木造ト煉瓦造トノ間ニ保險料ノ負擔ヲ適當ニ分ツコトハ殆ド不可能ノ事ニ屬ス。サレバ此分類統計方法ハ時ニ採用セラレ、又ハ採用セラレンコトヲ主張スル者アレド、決テ正確ナル結果ヲ得ル方法ニ非ズ。況ヤ總テハ、保險ノ目的ニツキ算定シタル甲地ト乙地トノ平均保險料ノ割合ガ其儘甲地ト乙地トノ倉庫ニ適用セラレ、又ハ總テハ、保險ノ目的ニツキ算定シタル木造ト煉瓦造トノ平均保險料ノ割合ガ其儘倉庫ニモ適用セラルトナスハ純然タル一ノ假定ニ過ギザルニ於テヲヤ。

二、細別分類法。之ハ保險ノ目的使用別(即チ職業分類)ノ各部類ヲ地域ニヨリテ數區ニ細分シ、其細分ノ各ヲ更ニ建築別ニヨリテ數種ニ小別シ、其最後ノ小別毎ニ純保險料統計ヲトルモノナリ。此方法ニヨリテ得タル甲地、又ハ乙地ノ木造、又ハ煉瓦造倉庫ノ純保險料ハ前ニ述ベタル方法ノ如ク、假定ヲ用ヒタルモノニアラズ、且ツ各分類ノ保險金額ノ如何ニヨリテ影響ヲ受クルモノニアラザルヲ以テ前法ヨリモ遙ニ適當ナルモノナリトス。分類統計ハ此方法ニ依リ編成セラルベキモノナリ。

此細別分類法ニ依リ分類統計ヲ編成スルトキハ、假リニ總テノ保險ノ目的ヲ其使用ノ目的ニ依リ十類ニ別チ、其所在地域ニヨリテ十區ニ別チ、建築ノ種類ニ依リ

二種ニ分ツトスルモ、猶總テノ保險ノ目的ハ二百ニ細分セラレテ其各細分毎ニ保險金額ト損害填補額トノ割合ガ統計算定セラル、譯ナリ。而カモ保險ノ目的ヲ使用ノ目的ニヨリ僅カ十二分ツガ如キハ決シテ精密ニシテ公平ナル料率ヲ算定スル所以ニ非ズ、眞ニ公平ナル料率ヲ見出サンガ爲ニハ使用ノ目的ニヨル分類中工場ノ如キハ更ニ之ヲ十數種若クハ數十種ニ分ツノ必要アルベシ。又保險ノ目的ノ使途(職業)其所在地、建築方法ハ危險ノ測定ヲ爲スニ當リ考量スベキ重要ナル要素ニ相違ナキモ、猶此外ニ保險ノ目的ノ大サ、保險ノ目的ノ動産ナリヤ、不動産ナリヤ、保險ノ目的タル建物又ハ保險ノ目的タル動産ヲ容ル、建物ニ自働消火設備ノ裝置アリヤ否ヤ、將又周圍ノ事情等モ危險ノ程度ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ精密ナル分類統計ハ此等ノ標準ニヨリテ更ニ細分統計セラルベキモノ也。分類純保險料統計ガ公平ナル料率算定ノ基礎タランガ爲メニハ從來行ハレタル單純ナル分類ヲ更ニ細密ニスルノ必要アルコトハ多クノ人ノ一致スル處ナリ。例ヘバ奧國ノ Horst 氏ハ全國ヲ數區ニ分チ、各區ニ於ケル物件ヲ普通危險ト特別危險トニ別チ、普通危險ハ之レヲ市街危險ト田舎危險トニ別チ、市街危險ニツキテハ、之レヲ私有財産ト公有財産トニ、田舎危險ニツキテハ之レヲ大農財産、小農財産及ビ公有其他

農業用ニ供セラレザル財産ノ三ニ分チ、其各ヲ建物、動産等保險ノ目的ノ性質竝ニ建築狀態ニヨリ分類シ、分類最小單位ヲ四十一トセリ。次ニ特別危險ニツキテハ種種ノ標準ニヨリ(イ)工業物件ヲ六ニ(ロ)商業物件ヲ八ニ(ハ)公ノ目的及ビ娛樂ノ爲メニ存スル物件ヲ四ニ分チ更ニ(イ)及ビ(ハ)ニツキテハ其工業ノ種類又ハ使用ノ目的ニヨリ更ニ多クノ種類ニ細分スベシト主張セリ。(註一)又露國ノ Serge de Savitsch 教授ハ全國ヲ數區ニ分チ、其各區ヲ數小區ニ分チ、其各小區ニ於ケル保險ノ目的ヲ使用ノ目的ニ依リ五ニ分チ、其各ヲ不動産ト動産トニ分チ、動産ハ更ニ之レヲ四種ニ分チ、別ニ工場竝ニ商品ニツキテハ更ニ之レヲ細別スルコト、シ其上建物ノ種類ニヨリ三又ハ六ニ分チ、(商品及ビ動産ニツキテハ更ニ一項ヲ加フ)且ツ總テノ保險ヲ一年契約ト短期契約トニ分ツベシト唱ヘタリ。(註二)更ニ最近米國ノ Richards 氏ハ損害ヲ自火ノ損害ト延焼ノ損害トニ分チ、自火ノ損害ハ其保險ノ目的ノ所在ニヨリ、之レヲ十區ニ分チ、其各區ニ於ケル保險ノ目的ヲ其使用ノ目的(職業)ニヨリテ約四百三十類ニ分チ、其各類ヲ建築ノ種類ニヨリ三種ニ分チ、其各種ヲ建築狀態ノ危險程度ニヨリ十等ニ分チ、其各等ヲ職業ノ性質ノ危險程度ニヨリテ十級ニ分チ、其各級ニツキテ純保險料ヲ見出ス。延焼ノ損害ニツキテハ之レヲ外部ノ延焼危險ト、内部ノ延焼危險(即チ動産ノ場合ニハ同一建物中ニ在ル他

ノ動産ヨリノ延焼、建物ノ場合ニハ其建物内ニ在ル動産ヨリノ延焼ノ危険チイフ。

ノ目的ノ所在地ニヨリテ之レヲ十區ニ分チ、其各區ノ保險ノ目的ヲ「建物」動産及建物及ビ動産ノ三類ニ分チ、其各類ヲ建築ノ種類ニヨリ三種ニ分チ、其各種ヲ周圍ノ狀況ノ性質ニ依リ十等ニ分チ（外部ヨリノ延焼危險ヲ測ルトキニハ外部ヨリノ延焼危險チ十等ニ、内部ノ延焼危險チ測ルトキハ内部ノ延焼危險チ十等ニ分ツ）。其各等ヲ建物ノ性質ノ差異又ハ收藏物ノ性質ノ差異ニ依リ十級ニ分チ、其各級ニツキ、夫々外部ノ延焼損害ノ純保險料、ト内部ノ延焼損害ノ純保險料、ト算定ス。カクシテ得タル自火損害ノ純保險料外部ノ延焼損害ノ純保險料、及ビ内部ノ延焼損害ノ純保險料ノ三者ヲ考量合算シテ個々ノ保險ノ目的ノ純保險料ヲ見出スベシト主張セリ（註三）素ヨリ此等ノ分類ハ火災ノ危險、被保險物ノ數量ノ大ニ異ル我國ニハ直チニ採用スルコトヲ得ズト雖モ、近頃ノ歐米ノ専門家ガ分類統計ノ有効ナルガ爲メニハ分類方法ノ細密ナラザルベカラザルコトヲ認ムルノ一端ヲ知ルヲ得ベシ而カモ分類統計ノ方法ガ前記ノ細別分類法ニ依ルコト、セバ總テノ保險ノ目的ガ極メテ多數ノ統計單位ニ分タル、コト、ナルベシ。例ヘバリチャーツ式分類ニ依レバ自火損害ノ純保險料丈ケヲ算出スルニシテモ總テノ保險ノ目的ガ百二十九萬ニ細別統計セラレザルベカラザル次第ナリ（尤モ或種ノ職業ハ或地方ニハ存在セザルコトアレバ實際ノ數ハコレヨリ少ナカレバシトノコトナリ）カク

テハ一統計單位ニ屬スル保險ノ目的ノ數ハ十分ニ平均ノ法則ガ行ハル、位多數ニ上ルコト困難トナリ、從ツテ其統計ノ結果得タル損害ノ確率ハ純保險料率トシテ實際上効果ナキニ至ル恐アリ。

此ノ如ク分類ノ細密ナルコトハ多數ノ同種物件ヲ集ムルコト、ハ兩立セズ。コレガ調和ヲ計ルニハ分類ヲ粗雜ニスルカ、又ハ非常ニ長キ期間ニ互ル統計材料ヲ集ムルカ、若クハ多數ノ保險者ヨリ統計材料ヲ集ムルカノ三方法ニ出デザルベカラズ。コレヲ適當ニ按配スルコトガ分類統計ノ重要ナル問題ナルガ、而カモ分類ガ餘リニ粗雜ニ流ル、トキハ分類統計ノ効果ヲ薄弱ニシ、又統計期間ガ餘リニ長期ニ互ルトキハ、分類統計ノ結果ヲ不正確ナラシム。獨リ多數ノ保險ノ目的ヲ集ムルコトハ、如何ニ多數ニ上ルモ多キニ失スル虞ナシ。否、統計ニ入ル、保險ノ目的ガ多ケレバ、多キホド、分類ヲ細密ニシ、比較的短キ期間ノ觀察ヲ以テ、正確ナル確率ヲ見出し得ルモノナレバ、多數ノ統計材料ヲ得ンガ爲メニ、多クノ保險會社ガ協同スルコトハ分類統計編成上、極メテ必要ナルコトナリ。加之、一會社ノ經驗ハ會社ノ營業方針其他ノ事情ニヨリ非常ニ偏スルコトアリ、(註四)現ニ英國ノ協定會社中ノ或一社ガ或種ノ物件ニヨリ數年損失ヲ續ケタレバ其料率引上ゲテ協定委員ニ請求シ

タルヲ以テ委員ハ協定会社全體ヨリ其種ノ物件ノ統計ヲ蒐集シタルニ、其結果ガ單ニ損失ヲ示ササルノミナラズ、相當ナル利益ヲ示シタレバ、料率ノ引上ゲヲ爲サザリシニ其後ノ成績ハ多クノ會社ノ平均ノ正當ニシテ一社ノ統計ノ不十分ナルコトヲ示セル例、少ナカラズトイフサレバ火災保險統計編成ニツキテ多數會社ノ協同ノ必要ナルゴトハ屢主張セラレ、現ニ英國ニ於テハ從來協定率ノ新設又ハ改正ノ際ハ必ズ多クノ會社ノ統計ヲ編成スルコト、セリ。獨逸ニ於テハ一九〇〇年獨逸私營火災保險會社協會(Vereinigung der in Deutschland arbeitenden Privatfeuerversicherungs-gesellschaften)設立セラレテ、第一ノ協定料率ガ實施セラル、ト共ニ此協會ハ保險ノ目的ヲ四十四ノ項目ニ分チ、一定ノ書式ニヨリ協會加入ノ各會社ヨリ材料ヲ集メテ分類統計ヲ編成シ初メ、別ニ其編成スル火災原因統計ト相俟テ既ニ實施中ノ協定率ノ改正ニ資スル事トシ、更ニ一九〇三年ヨリハ未ダ協定率ヲ定メザル被保險物ノ種類三十三ニツキテモ、各社ノ材料ヲ綜合シテ分類統計ヲ作り、營業上ノ參考トスル事トセリ。更ニ米國ニ至リテハ、從來各社ノ經驗ヲ綜合スルノ必要ヲ主張スルモノアリ。又、州政府ノ或者ハ其州内ニテ營業スル保險業者ニ分類統計ノ提出ヲ命ジ、コレヲ編成シテ料率取締ノ資料ニ供セシモノアリシガ、一九一五年ニ至

リ、全國ノ主ナル火災保險會社ヲ網羅セル全國火災保險業者協會(National Board of Fire Underwriters)ハ其内ニ中央統計局ヲ設ケ此事業ニ贊成セル二百餘ノ保險業者ヨリ保險契約ヲ締結シ、又ハ損害ノ支拂ヲ爲ス毎ニ協會ノ定メタル一定書式ニヨリ之レヲ中央統計局ニ報告セシメ、中央統計局ニテハ此材料ヲ一定ノ分類ニヨリテ整理統計スルコト、ナレリ。又イリノイ州ニ於テハ最近其州ニテ營業スル保險業者ヨリ各契約ノ保險金額、保險料收入額、損害支拂額ノ報告ヲ爲サシメ、前記全國火災保險業者協會ノ定メタル分類法ニヨリテ綜合分類統計ヲ編成シ、料率監督ノ參考トスルニ至レリ。蓋シ同州ニテハ保險料ノ不公平ニ對スル批難特ニ甚シク、保險監督官ハカ、ル分類統計ノ編成セラル、ニ非ザレバ到底此種ノ不公平ハ除却セラレザルベシト考ヘタルニ因ルモノナリ。

總テ此等ノ事例ハ皆分類統計ノ編纂ニハ多クノ會社ノ經驗ヲ綜合スルノ適當ナルコトヲ示スモノナリ。(未完)

註一、Horsy, a. a. O.

註二、Savitsch, a. a. O.

註三、Richards, op. cit. 及拙稿「經驗等級分類料率表」(前掲)

註四、デインハ偶然選ミ出セル三十三種ノ分類ニツキ最低損害率ヲ示ス會社ト最高損害率ヲ示ス會社トノ經驗差ニ多クノ會

社ノ綜合損害率ヲ表示シ、且ツ曰ク「此表ニ據ルトキハ或會社ハ非常ニ少キ損害率ヲ示セルニ、(例ヘバ或種類ニツキテハ二二%)他ノ會社ガ非常ニ多キ損害率ヲ示ス。(例ヘバ前記ノ種類ニツキテ四四六%)」此表ノ「最高」「最低」ノ二欄ヲ見タル丈ケニテモ、個々ノ會社ノ經驗ガ各分類ノ平均損害率ヲ知ル標準トシテ、全ク價値ナキコトヲ示スベク、反之、個々ノ會社ノ經驗ヲ綜合經驗ト對比スルトキハ、充分ナル分類料率ヲ決定スルニ當リ、信賴スルニ足ルベキ標準ヲ示スベキ平均率ノ存在スルコトヲ知ルベシ」ト (A. F. Dean: Fire Rating as a Science, 1901. R. Yale Reading on Insurance Pt. II. p.p. 202—203.)